

初雪と望月と北上さん
と提督と

まのめ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

だらつと会話文がたんたんと続きます

ゆるくい日常生活

目次

今日も今日とて

1

今日も今日とて

「ていとくうく、ミカン取ってえ〜」

「あああたしは剥いてくれよ司令官〜」

「おおお、いいねえ、じゃあアタシの分も剥いてえ〜」

「司令官そのマンガ、取って」

「初雪のは後でいいじゃんかあ、なあ剥いてくれよお」

「やだ、今読みたい」

「ねえ早くしてよていとくうく、北上様もおこるよ?」

「お前から自分でやれよ! 動けよ! 俺は今忙しいのわかるだろ?!」

「「やだ」」

「声を揃えるな! めんどくさがるな!」

「とか言いつつミカンを剥いてくれる提督でしたあ」

「いや剥かねえよ! 勝手なこと言うな!」

「じゃあマンガは取ってくれるんだ、やりい」

「マンガも取らねえよ! 自分で取れ!」

「さつきから司令官うるさい、ポリウム落として」

「うるさくさせてるのは誰だよ！」

「北上？」「初雪？」「もつちー？」

「お前ら全員だよ！分かってやってるのか、なあ！そうなんだろう！分かってやってるだらろお前らー！」

「そんな怒んなくていいじゃんかあ」

「そうそう、ちよつとは息抜きしなよ司令官」

「こつち来て一緒にこたつ入ろう、司令官」

「仕事をしろ！秘書艦ども！」

「「やだ」」

「だいたいこのメンバーを秘書艦にするのおかしくない？」

「あ、それアタシも思った」

「もしかして、司令官のお気に？」

「「いやくん」」

「んなわけあるか！なあにがいやくんだ！アホどもが！」

「ちよつと提督のいやくんはないはあー、野太い」

「もつと可愛くたってよ」

「三点」

「ああああもう！ふざけるなお前ら！」

「秘書艦にお前らを選らんだのは普段不真面目で仕事しないから俺の眼の届くところに置いて、仕事させるためだったんだ！それなのに執務室に私物を持ち込んで我が物のようにこの部屋を使いやがって、ふざけるのも大概にしろ！しまいには仕事まで押し付けやがって！」

「おお、爆発してるねえ」

「鬱憤がたまってるんだろうね、かわいいそうに」

「きつとお目当ての艦娘がドロップしないからイライラしてるんだよ」

「お前達3人にイライラしてるんだよ！」

「んで、仕事は終わったの？提督」

「終わったよ、お前らが手伝わねえから時間かかったけど」

「流石だねえ、大量の書類業務も定時前にはきつちり終わらせる辺りうちの提督は本当有能だよ」

「スペックだけは高いからねえ、うちの司令官は」

「文武両道で処理能力も高いけど性格に難あり」

「ああわかる、いつもポンポン丸だかんねえ」

「司令官はもつと笑顔でいるべき」

「ほらにこやかに笑ってえ〜」

「笑顔だよー司令官〜」

「俺が笑顔になれるように仕事を手伝ってくれよ」

「めんどい」

「パース」

「他を当たって」

「いちいちムカつくやつらだな」

「戦場じゃ旗艦を任せれるくらい頼りになるのに、どうして私生活ではこんなダメなやつらなんだ」

「ギヤツプ萌えってやつですな」ニシシ

「あつもつちーうまい！」

「座布団一枚」

「お後がよろしいようで」

「よろしくねえよ、なに締めようとしてんだよ！終わんねえよ」

「ええー、終わんないの？」

「つまんない」

「んじやああたしマンガ読むから司令官とつて」

「はあー、まったく：・はいはい。俺もそっちいくからこたつ一ヶ所空けといて」

（（あ、マンガ取つてくれるんだ））

「ほいほーいていとくう、ここあいてるよー。もっちーの対面側ー」

「んー、あつ初雪どのマンガが読みたいんだ？」

「ドラゴ○ボール」

「無印？Z？何巻？」

「Zの23」

「ほーい」

「んで北上と望月はミカンいくつ剥けばいいの？」

「アタシは3つー」

「あー、あたしは2つでいいや」

「ほいほい、しばし待たれよー」

（（なんだかんだやつぱり色々してるんだよなあ））

「こたつはいいねえ」

「まっただくだな」

「ぬくぬく」

「気持ちいい」

「「「はふうー」」」